

ブラジルの世界大会で活躍した卒業生

2022.9.1 校長 西谷 秀幸

長い夏休みが終わり、今日から2学期が始まりました。今年の夏休みは、皆さんにとって、どんな夏休みだったでしょうか。「楽しいことばかりだった」という人？「楽しいこともあったけど、嫌なことやつまらないこともあった」という人？「嫌なことやつまらないことが多かった」という人？

そんな夏休みも昨日で終わりです。1日も早く、学校のリズムに戻しましょう。

さて、1学期の終業式でお話したように、校長先生は、8月にFLLというロボットの世界大会でブラジルのリオデジャネイロという街に行ってきました。出場したのは成丘小の卒業生で、中学生になっても成丘小チームとしてロボット大会に出ていた5人です。

ブラジルは、日本から見たら地球の反対側なので、行くのにお金も時間もかかります。飛行機の載っている時間だけで、25時間。カタールという国のドーハまで10時間、そこで乗り換え、アフリカ大陸と大西洋を越えて、ブラジルのサンパウロまで14時間。さらに飛行機で1時間乗ってリオデジャネイロに着きます。家からホテルまでは、40時間くらいかかりました。

ロボットの競技会場は、こんな感じです。ブラジルは、今、コロナが収まっているので、マスクをしているのは、日本人とわずかな人たちだけでした。

ロボットでは、本番で自分たちの最高得点565点を取ることができました。



FLLという大会はロボット大会ですが、みんなが総合の学習で調べたことを発表したりするように、自分たちが調べ、研究したことを審査員の前でプレゼンテーションします。しかも、世界大会ですから、すべて英語で発表します。

その「イノベーション・プロジェクト」という研究発表部門で、なんと世界第2位の賞をもらってきました！（動画を見せる）

世界大会の楽しいところは、こういうピットという場所があって、世界中の人と触れ合うことができる場所です。外国の人の名前を聞いて、漢字にして書いてあげたり、折り紙を折ってあげたりしたのですが、外国の人たちは、日本の文化や漢字が好きな人が多いので、NARIOKAのチームのピットは大行列ができました。



ブラジル人だけでなく、コロンビア、パラグアイ、フランス、イスラエル…など、たくさんの方が来てくれて英語でコミュニケーションを取りました。浴衣も大人気でした。



缶バッチがほしいというので、ジャンケンをしました。英語では、「ロック、シーザー、ペーパー…123」と言いますが、ブラジル人は何と言ったと思いますか。「じゃんげんぼん」と言ったのです。

七夕飾りにも、興味をもって来て、願い事を書いていました。アラビア語もあります。

校長先生は、ブラジルのテレビ局の取材も受けました。こんなものを頭に付けていたことを忘れていて、今思うと、この姿が日本人代表としてブラジルのテレビで放送されたかと思うとすごく恥ずかしいです。

さて、ブラジル大会に行ってきた、思ったことがあります。それは…。

- 新しいことに自分からチャレンジすること
- 自分で決めた目標に向けて、最後まで諦めずにやり遂げること
- 自分から話しかけて、コミュニケーションをとること

今回の中学生メンバーは、小学生のときにFLLという新しいことに自分からチャレンジをしました。そして、成丘小を卒業しても「絶対に世界大会に行くんだ」という目標をもち、「不撓不屈」というスローガンを掲げて、諦めずに最後までやり遂げました。メンバーは、英語が少ししか話せなくても、自分からどんどん話しかけてコミュニケーションを取っていました。

そこで、皆さんも、この3つのことを2学期に意識して過ごしてほしいと思います。

そして、もう1つ。

- 英語で会話ができるようになること

校長先生は、英語がほとんど話せないのので、英語が話せたら、もっともっと楽しかっただろうなあ…と思って帰ってきました。ですから、皆さんは将来、世界中の人たちと楽しく会話ができるように、今から目標をもって、英語の学習も頑張してほしいと思います。

これで始業式の話が終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

長い夏休みが終わり、今日から2学期がスタートします。皆さん、ゆっくり心と体を休めて充電することができたでしょうか。

準備万端だとは思いますが、急加速・急発進は禁物です。最初の1週間「白銀の3日間」の予定をしっかりと立て、1学期に作った学級や授業でのシステムを確認しながら丁寧に進めてください。その際、作ってきたシステムがほころびているときにはすぐに修正する必要があります。「あとでもいいや、来週から修正すれば…」、これでは確実に崩れてしまいます。「修正はすぐに実行!」、これが2学期最初の原則です。その修正がうまくいかないときには、学年で協力して対処していきましょう。管理職への相談も含め、くれぐれも自分だけで抱え込むことがないようにしてください。

特に、生活規律と学習規律の確立を最重点にしましょう。「朝の会・掃除・給食・帰り会」の4つを丁寧に指導することが大切です。朝の会・帰りの会で、時間が長くなるのはNGです。短時間でテンポ良く進めていくと、生活規律の確立がスムーズに確率していきます。心掛けてください。

さて、2学期始業式では「FLLブラジル大会」について話をしました。これまで日本での大会で力を出し切れず不完全燃焼だったメンバーが、ブラジルという地で最後の最後に力を出し切り、結果を残したことは、本当に嬉しいことでした。彼らの取組は、行事が多く、成長の場面がたくさんある2学期を過ごすにあたり、ぜひ参考にしてほしいと思います。各学級でも、補足をお願いします。

ところで、オンラインではありますが、毎回お願いしているように、始業式が終わるまでに、必ず子供たちの前に立って様子を一人一人の様子をしっかりと見てください。話を聞く時間も、前方から一人一人の様子を観察してください。これは健康管理上のことはもちろんですが、「始業式の朝の顔には、その子の休み中の様子が表れる」からなのです。

その理由は、話を聞いている様子をしっかりと見ていると分かります。担任と目線が合わない子、うつむき加減の子などは要チェックです。つまらない夏休みを過ごした子は話に集中せず下を見ることが多いのです。夏休みに何かあった子は、担任と視線がなかなか合いません。ですから、始業式という短い時間に、クラスの子供たちの夏休みの様子を把握してください。

この表情は、始業式の後に消えて分からなくなると言われています。ですから、始業式の短い時間が勝負です。私たちはプロの教師ですから、教室内でどの位置で見るといいのかを考えてみてください。児童理解をする絶好のチャンスですから、みすみす逃すことのないようにお願いします。

なお、始業式前に時間がありましたら、教室に子供向けのメッセージを書いておくといいですね。長い夏休みが終わり、子供たちが教室に入ったとき、「さあ、がんばるぞ!」という気持ちになるような言葉を書いていただくと、2学期のスタートが違ってくると思います。また、始業式後の学級指導では、夏休み中の病気やけがの有無、休み中にいじめがなかったかなどを確かめておいてください。

最初の週は、頭・体・心のすべてがきついと感じます。やらなければならないことがたくさんありますが、私たち大人も心身ともに体調を崩さぬよう、1つ1つよろしくをお願いします。

【資料】白銀の3日間について

担任がクラスを組み立てる機会は年に3回あります。各学期のそれぞれ始めの3日間です。その最大の機会は、1学期最初の3日間（黄金の3日間）ですが、長い夏休みが終わった2学期は、休みモードから一気に学校モードへと切り替えをしなければならぬため、1学期に次いで重要です。ちなみに、この2学期始めの3日間を4月始めの「黄金の3日間」に対し「白銀の3日間」と呼びます。

「夏休みが終わった。さあ学校が始まるぞ。」という積極的な子供たち。「夏休みが終わってしまった。あ～あ、学校が始まるのか。」という消極的な子供たち。前者には学習システムの点検が、後者には学習の楽しさを味わわせることが大切です。

2学期は、一番長く学校生活が続きます。「楽しいクラス」「楽しい学校」になるように、最初の3日間でシステムを確認したり作り直したりし、ささいなことでも大いにほめて楽しいスタートをきってほしいと思います。